



水鏡

上



曾
773
95

水鏡卷上



一 神武天皇
 二 安寧天皇
 三 孝昭天皇
 四 孝靈天皇
 五 開化天皇
 六 垂仁天皇
 七 成務天皇
 八 神功皇后
 九 仁德天皇
 十 反正天皇

一 綏靖天皇
 二 懿德天皇
 三 孝安天皇
 四 孝元天皇
 五 崇神天皇
 六 景行天皇
 七 仲哀天皇
 八 應神天皇
 九 履中天皇
 十 允恭天皇

大正二年一月廿五日
中村猶雄氏贈



廿一 安康天皇
 廿三 清寧天皇
 廿五 顯宗天皇
 廿七 武烈天皇
 廿九 安閑天皇
 卅一 欽明天皇

卅二 雄略天皇
 卅四 飯豐天皇
 卅六 仁賢天皇
 卅八 繼體天皇
 卅 宣化天皇

清一むつきやまては記のこころを
 ろつむす乃日龍蓋寺へまうで侍く屋うてう終
 よりまの族またそかまこれ種よ内りつしまなり
 小うこれ種いのよはらそ若うたぬえて師の
 むとた志り一をすこゆ一種ようちまらまれ
 室のと初秋乃かののそふおとらうまうとあまうり
 浦りて通夜一侍一にせのがうちあつまは程
 小修り者の世に五あそやあそんてんこ
 種派ゆとなうそくよむのりつり地うねれ
 いりねる人のつごよりのよまゆかぞは種をこのま
 空戸つごまや一あそむよなまらひたてまうむ

幸かんがふまゝのそまのりなむありびきりのあま
とて衆とあつて一かたきしつとてのまのちりあ
のこゝろに人かたはしつとてあつてこの世中
のふかへはなるにあらんといふもあましく
それよのいたるにあらんといふもあましく
またづての世とてあつてあつてあつてあつて
てのまのちりあつてあつてあつてあつて
まのちりの世とてあつてあつてあつてあつて
うとてあつてあつてあつてあつてあつて
乃まのあつてあつてあつてあつてあつて
一まのちりあつてあつてあつてあつてあつて

次まの切乃有る海をすて世のなり極くちりあつて
かゝるまの切乃有る海をすて世のなり極くちりあつて
百年といふは一年の命のつゞきなりて十歳より
有りといふは小切はちりあつて又十歳より又百年より
年といふはちりあつて又十歳より又百年より
や戸の二は小切とあつて又十歳より又百年より
はくせればはちりあつて又十歳より又百年より
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
と世中をすてあつてあつてあつてあつてあつて
いふまゝにちりあつてあつてあつてあつてあつて
極光浄といふ天よりむらりの天人むすれり大梵王

也なふをわたり次第はさうくさのさめよせまき終て
はば人むさし餓鬼畜生出でてこそふ地獄をわ
く終なりつあくて成劫女劫をきりまりぬ世間もを
情を終りゆてふあうより成劫はゆせつきた
恒劫とて又女劫中劫のやとをきくはなり但
めは一劫い終次中をきくはゆきふこや
那ーちとば恒劫をけいあの人命はふ氣なりハ
あつて無量劫をきりぬより十歳までなり也は色
をもはじのゆるゆと一の中劫の終ありまてす二の
初より十九の劫までは終なりつりやうりハ万歳
と十歳より二十歳よりハ万歳より初下んく

侍也ゆくとす女の劫ハ十歳よりハ万歳までゆきふ事
のありてをく終ゆかーあまをきくはゆは一の
中劫なりこれ天より地獄まで成劫ゆて終ゆ
のありて有情のあまはあまゆて恒劫はゆ也
ゆきふ壞劫とてこれゆきまの女の中劫の終あり
るゆめは十九劫は地獄よりけりて有情をぬを
ぬこの先ゆゆつこもぬをぬゆはあゆ次
あゆかへりて天上へゆりぬなり但地獄の業程
はさぬ衆生をばあま三千界のちこくゆり
やふなりあくてす女の劫は火ゆきまてを風輪と
て風吹たりゆ風のうより梵天まで山川もあふも

佛法より因果かんごの成りまゝなるを以て其の如く志す
まり有りてはかゝり又も其の如く佛法より世
世のありき處を以て其の如く志す其の如く
とつりあるはす一何とせむとむらひひとあり
ぬ世のありき處を以て其の如く志す其の如く
ありけり世さい継けいと名づく一何とせむとむらひひとあり
天皇よりのおけりてはこれより其の如く志す
より其の如く志す其の如く志す其の如く志す
とせばとく申す其の如く志す其の如く志す
其の如く志す其の如く志す其の如く志す
其の如く志す其の如く志す其の如く志す

とは世継と名づく人の子と名づく一かの嘉祥
二年より其の如く志す其の如く志す其の如く志す
の代七代より其の如く志す其の如く志す其の如く志す
かやも其の如く志す其の如く志す其の如く志す
二代の如く志す其の如く志す其の如く志す
より其の如く志す其の如く志す其の如く志す
きりりその如く志す其の如く志す其の如く志す
其の如く志す其の如く志す其の如く志す
二十二年より其の如く志す其の如く志す其の如く志す
四代より其の如く志す其の如く志す其の如く志す
て其の如く志す其の如く志す其の如く志す

第一神武天皇

七十六年三月甲辰日崩 年百六十七
九月丙寅日葬大和国畷大山東北陵

神武天皇とあり見ゆはこれかやあり記あり
之次乃見しとの事四君の子なり海神の女玉
依姫也又海と此母をうまひたり給ひ玉依姫の
屋一むひきてまのり給たりあるよりゆきその世
より傳へしと云ふあり傳へしよりきみのみ
かどちこれなるやの世庚午のときむまれ多きふ
甲申歲東宮と立給ふ四年十五辛酉の年正月
一日位ははき給ふゆきと云ふ世となり給
あり七十六年神代よりはたりて叙あり一ハ
いふれと云ふの社より傳へ一ハありと云ふ

また一を内裏うちらよまた又かくん三あり一は大神宮より
たう一は次一は日ひあふおう一はす一は内裏よおん
一は内侍うちわらわあふうたう一はあまこの日本
をあきば一はとほきこれ一はこれ内侍あま
あふりあふてるあまかか一ははせおん
一は年そ釋迦佛しやくた温磐ぬばんより終ひくあり二
百九十年よあうり侍り一はを世あがりまうりや
思へども佛ぶつの在世ざいせよごもつらうらうけきと
やうく世のすゑとてうはゆり宮終

孝二綏靖天皇

世三年五月崩 年八十四
十月葬大和国桃花島田岳陵

はきれみりも綏靖天皇すいせいより神武天皇の孝三

のゆき也神母事こと代主神のあむあめ五十鈴姫いすずひめをのり
神武天皇の神世四十二年正月甲寅こういん日東宮よま
終ふ四年十九庚辰こうしん也一正月八日己卯こひのう位り
はき終ふゆ一五十二世とまうり終ふる世三
年ちく見ゆやうせ終むと諒闇りやうあんの終世の事を
ゆあふれ見こにゆつけなまうりとこのゆあふれ見
こりともくたちとうまひとまうりむとをうり
まうりつり一とこれとこの見こゆえ終ひてゆりて
なうすれて見るやい戸ひりゆあふのえこと
神心とゆえせくかのあふれみこといさせまてふつ
終せまふよこのあふれとてとらうかしてえり終

皇極經世一書

孝元天皇

五十七年崩 年百十七 葬大和国輕劍池島上陵

次乃みりく孝元天皇よりりこ孝靈天皇の兄こ母

皇后宮細媛也孝靈天皇乃弟世世六年丙午正月

東宮の三つふ四年十九丁亥の〜正月十四日位小

治き終ふ四年二十世成りて終ふり五十七年なり

二十九年し丑六月は終〜終るるのゆりある

〜ありわき西〜ゆ〜か

孝九関化天皇

六十年崩 年百十五 葬大和国春日率川坂木陵

川さの兄弟也関化天皇と申き孝元天皇乃弟二君

内子弟母皇太后櫛鬘色謹命なり孝元天皇の四世

廿二年正月東宮のたり終ふり〜十六冬未の〜

十月十二日位よりき終ふ四年廿一世とる〜終ふ事六

十年は内よ終る〜終る南天竺の龍極菩薩

と戸僧のすあり〜終る〜真言と〜

めそひの免終ひ〜事いは京薩あつと又祇園精舎は

ゆ〜むまで終る〜と旃育迦王乃は終り終りあ

ふと百年と〜にねと人や終る〜終り〜

〜心〜きい人のふりそのら十二年ありて六師

迦王又は〜終る〜終り〜は西河位り

川を終ひて十年なり〜終る〜終る

孝十崇神天皇

六十八年崩 年百十九 葬大和国山邊道上陵

次乃んや、崇神天皇より、開化天皇第二の御子、母皇后伊香色譴命なり、甲申れ、正月十日、位よ
はき給ふ也。一、五十二世と志り給ふ、六十八年の
六年と申すに、母文をば、母てき、母ら給ふ、母なり
又、母これ、母物、母らより、母てき、母ら給ふ、母なり
く、母一日、母教も、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり
をば、母てき、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり
天皇よ、母王、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり
母てき、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり
て、母てき、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり

一、六十五年、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり
一、母てき、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり
て、母てき、母らあり、母てき、母ら給ふ、母なり

第十一番 仁天皇

九十九年崩 年五十一 葬大和国漆上郡伏見東陵

次乃んや、母無仁天皇と申す、母崇神天皇、母三、母此、母由子
母母、母皇后、母市間城姫、母の、母崇神天皇、母四十八年、母四月、母
母内、母妾、母の、母つぎ、母あり、母て、母東宮、母よ、母ま、母て、母ま、母あり、母給ふ、母なり、母此、母年
母女、母壬辰、母の、母年、母正月、母二日、母位、母り、母給ふ、母なり、母四十三
母世、母と、母志、母り、母給ふ、母なり、母九十九年、母より、母四年、母と、母申す、母に、母后、母の
母あ、母の、母り、母て、母給ふ、母なり、母と、母志、母り、母給ふ、母なり、母此、母年、母の
母り、母と、母志、母り、母給ふ、母なり、母と、母志、母り、母給ふ、母なり、母此、母年、母の

戸給ふは居るふもあがまてあつてさういふ
まゝなまの給ふまゝにしてはあめ給ふ
あゝばをうは我文をうはぢりりる程
なり世中あつてさういふ人こそお
ほの給ふは徳我位にさあつてはせよたつせん
福を世中と清心とあつてさういふ
うゝなひをさういふ給ふとさういふ
きそまのり給ひの居るをさういふ
あどかゝひひけられぬとさういふ
てはひの居るのさういふとさういふ
かひ給ふあゝは十月のみさういふ

あゝは居るふもあがまてあつてさういふ
まゝなまの給ふまゝにしてはあめ給ふ
あゝばをうは我文をうはぢりりる程
なり世中あつてさういふ人こそお
ほの給ふは徳我位にさあつてはせよたつせん
福を世中と清心とあつてさういふ
うゝなひをさういふ給ふとさういふ
きそまのり給ひの居るをさういふ
あどかゝひひけられぬとさういふ
てはひの居るのさういふとさういふ
かひ給ふあゝは十月のみさういふ

日一奉もゆりて七年と申一なるすまひの
まりゆり一十五年と申一丹波よすまた
む一見この世にみ人なる一きつとれとれ
まの一ま一ま一あせのま一かたをまのり
有り一たをの一たのちのまひ一あれと
乃おんせ一あからゆとふ一せん一たれと
のくも一有一つ一のまのり一と
う一あれは一ま一ま一なる一あては
ねくあり一ゆひ一あれはゆり一ゆり一と
より一の一はたらふと一と一あをた
とら一と一ゆり一は年一八月一のゆの

ゆり一と一ゆり一あゆ一ゆり一ゆり
たふ年一と一に大神宮をけ一りて伊勢の國よ
一ま一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
日た一まゆのあては清神はゆを一と
ゆ一あゆ一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆ子一せゆひ一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり

より後... 形... 物... した... ま... 此... 祇園精舎... ありて又... のた...

まふあり九十二年... 夢... ありけ...

景行天皇

六十年崩年百四十三 葬大和国山邊道上陵

次... 子... 月... 申... は... を... ふ...

まのりなをとて此とては未だもそたてまつり
りしなり幸未のり七月十日位に傳ふ終ふ此年
八十四世とありなりなりなり六十年也五十一年に戸
小内宴おこさひ終り成務天皇のいま
武内よりを産まのり終ひたりか
みゆやうの子を終ひり戸たすく人く是れ
御のそむのあひび心とせらふあきありありなり
と一むふらうのゆゑあるものもゆるんおと
て門をのりめくなんゆるとたまひりか
ゆとくありびねく寵より行ひき武内孝元天皇
のゆいまごかりは後代にれんやのゆりあり

て世よむくたなりあいまありこれなり
りたくりしれなりあは人より次五十八年二
月近江に穴穂よりつりり記くすの朝美を
武内よりけりなり

成務天皇 六十年崩年百九 葬大和国狭城楯列池後陵

次のみりと成務天皇より景行天皇の世五十二年八月
沖母皇后兩道入姫也景行天皇の世五十二年八月
壬子日東宮より立終ふ幸未のりなり正月廿日成子位
より終ふなり四十九世派ありなりなり六十年
一年のりなりなりなりなりなりなりなりなり
武内より終ふなりなりなりなりなりなりなり

天仁より大后より事いあせりてけしきまきか
りやは棟梁は后よりたあまもきく大后国
事よりけしきの名をたけしきよりけしきなりけ
みこと神子おとせしきよりけしきよりけしき
とひのんごも位もはけしきたりけしき

才十四 仲哀天皇 九年崩 年五十二
葬河内國惠我長野西陵

日本武尊よりけしきよりけしきよりけしき
垂仁天皇のいむれめけしき成務天皇三十八年二月
より東よりけしきよりけしきよりけしき
けしきよりけしきよりけしきよりけしき

とてう勢給ひのりかむ武内山骨とばりて帝
よりけしきよりけしきよりけしき

才十五 神功皇后 六十九年崩 年百
葬大和國狹城楯列池上陵

次者んや神功皇后よりけしき開化天皇のけしき
なり仲哀天皇の后とてけしきよりけしき
高願媛幸已れより十月二日位よりけしき
おの山附けよりけしきよりけしき
けしきよりけしきよりけしきよりけしき
天皇は山附八年よりけしきよりけしき
よけしきたりけしきのけしきよりけしき
不國あり新羅よりけしきよりけしき

かりてうへふみえゆりしやーかど皇族そのくふを
ひつぎ終りんとてりしをとりてはあーにぎしんを給
ひて事をりりくつらん日にせまししうらまらん
とりのりちひ終ひてこのほごやりしをすしきと
まつとせねりしすーあつしーかり仲哀天皇うせまを
ねらう海をのり二月也は事十月のまをたごあつ
すかりしま次ともえんやいさう勢終りぬねりや
ゆりらん柵十月辛丑日う新羅へまつり終りしと
うこのかりれ終りしう柵をさるり莫と舟の
左ちよさひくかかきなる風をさしてをみやうかつ
かよたあつとむて波あつとまきて新羅國のうちを

多むりりよ入るる所より此國乃王をうとそつとくは下
せあつめくむしりりいさむあつ終事りしうら
水まごま國のうらふんちるんは運れはきをとり
あまのうくにをりあましすりかやなげきれぬ
ほごふいんさあまうみとんちくくつんのくか山と
あつ新羅の王あまをえくねりつあれより東に
神國あり日本とつふりそのくふ力はものなる
まればちりあつしすし思ひくかの王をみして皇
后れゆらぬのまはゆりつてはたたりなごくあつかむ
とそまつりくやししふん物とたてまつり
神しとま皇族を國へ入とまひてはりく

多うこれと封ト國乃指圖書とより給ひ奉
王は海くろたきく坂舟八十は建てたきまの高築
百濟とのふ三北のこのゆとまきとてどちをそれてます
うそまていづひいそまのりぬかてはへにうり給
ひと十二月の王子とてなまのり給ひまはせ
やりのれまははれり〜またわくあま〜皇后京
ゆり給ひしとゆま〜これ中子きら思ひ給ひやちみ
やうせ給ひまのり又皇后すてん皇子とてま
はり給ひてがり是と位よはんと〜うはり給
あつめまはらこあう〜まてふらと〜ふま
ゆきとてらりゆれり〜して皇后とまらまて

ゆつり〜かふあなま〜む〜けり給ひ成
皇后さ〜給ひ〜えつ〜王子とてだて〜ま
給ひ〜武内の大は〜あせらまそ南海の舟と
い〜給ひ〜かまのつ〜紀伊國より給ひ
きそはらちをこたらむやんとた〜給ひて皇后と
か〜ゆま〜ま〜給ひ〜程よあり給
のま〜ま〜ま〜か〜れ〜給ひ〜あ〜
ま〜ま〜ま〜武内の大は〜又ま〜かひ給ひ
〜ま〜ま〜ま〜給ひ〜れ〜あ〜ま〜
このま〜か〜のあひ〜む〜ま〜ま〜ま〜
日かまはす〜坂皇后はまきふあ〜〜給ひ〜

やうかひもあまのぶひひびりかど二人とひく
下もさうゆりたりゆ(ありと申し)いさる祢とせ給
ふ小作祝や天部祝とのふとのふりきさりのりし
やうともあまのこの小作祝とせふき給と天部祝を
かひひくまれのさるあかきせんともかひりし
ゆてたか下もさるさるひりしけるさひのばあめ
てがりもさるさるそのつとさるのさるんさるせ給
ふさゆとた申があまのさるさるはわろくまうりま
さる給ひもあまのそれらり日乃りりあまのそれら
あり十月の月下あまの皇太后と皇太后のりきさる
まうふは給もさるあまの祇園精舎と天魔院

孝十六 應神 天皇 四十一年崩 四年百十一
葬河内国惠我深陵

ゆりりあまのさるさる
次乃見やや應神 天皇と申さるのやりのまはは
あまのさるり仲哀天皇の御子神母神切皇后の御
しまたん神切皇后の御世三年と東宮の御世は
四歳也庚寅のし正月丁亥日位は御さるり
きぬと七十一世とさるり四十年也八年
と申四月は武内の大匠をたかしはりしとさる
あまのさるりさるさるさるさるさるさるさる
乃ゆとさるさるさるさるさるさるさるさる武
内の大臣はさるの玉位とさるさるさるさるさる

孝女 元恭天皇

四十二年崩 年八十
葬河内国惠我长野北原陵

次此みりと元恭天皇と申した仁徳天皇す五乃此子
此母皇后般之媛なり壬子乃也十二月は位つた
此ふ此年二十九世を志り此ふの四十二年なりあか
のたつたうせ此ひと此ち大臣をけりめて位つた
君しを此き此ふも也とて志り此ふことなり
しうとてうけたり此ふして親方ひとて病
はまづめりおやをの位をたつたなり此ふとて此
はくき事なるは此ふのいふひと大臣此ふとて
めをたまつりて帝王此御位つたはくきとて久
かり此ふあはく此ふとて此ふとて此ふとて

めさすして正月よあかんとて此ふとて此ふとて
此ふとて十二月までみりと此ふとて此ふとて
此め此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
まこととて一月とて此ふとて此ふとて此ふとて
けりめとて世中此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
多ふとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
めさすとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
此の此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
事もやとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて
此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて此ふとて

ありては、(ふて)もひえと、うとくすで、い志が
入る、うり、と皇子、んた、うき、ひて、り、た、す
き、任、と、ば、ぐ、ゆ、い、ま、い、ま、り、る、と、大、事、あ、と、は、今
ま、ご、う、け、と、な、い、あ、そ、ゆ、も、い、ま、か、い、い、ひ
あ、ひ、な、る、る、も、ば、あ、れ、ら、よ、の、れ、ゆ、り、よ、ゆ、に
り、は、と、ね、せ、と、も、い、か、し、一、天、下、の、人、よ、う、い、と
な、い、た、か、て、任、は、け、い、さ、ひ、い、り、り、三、年、を、す
一、正、月、は、新、羅、(新羅)と、す、と、り、に、つ、り、に、な、り、か、ら
八、月、ま、す、り、り、を、り、ま、る、く、や、は、か、ま、い、と、は、く、り、り
と、せ、ひ、ひ、い、ま、を、れ、あ、り、と、く、は、あ、い、ひ、え、を、せ
ね、と、い、ゆ、い、り、は、は、い、ゆ、り、り、く、と、も、あ、い、ま、る、

と、せ、て、か、る、一、は、う、り、と、七、年、と、す、一、十、二、月、
は、あ、そ、ひ、あ、り、一、と、ん、く、琴、を、む、き、は、ふ、と、店、き、め
で、き、と、ま、つ、り、と、ま、ひ、く、ら、ね、ひ、り、あ、り、あ、れ
ひ、め、ご、と、ゆ、い、と、せ、あ、い、と、な、ま、ひ、と、ん、く、も、む、あ
お、い、あ、れ、が、い、ふ、う、と、い、ひ、と、を、ひ、い、と、は、あ、い、
乃、め、ぞ、と、ら、よ、り、あ、い、と、あ、い、ひ、と、ゆ、り、あ、る、事、と、あ
ゆ、り、ん、き、う、ね、と、い、ひ、と、い、ひ、ね、ら、る、あ、い、は、い、
し、な、ま、う、き、な、い、と、い、ひ、と、い、ひ、ね、ら、る、あ、い、は、い、
あ、い、ち、ら、あ、い、ら、ん、せ、い、あ、い、ゆ、な、い、ひ、ゆ、り、あ、
あ、の、う、く、あ、い、と、い、り、か、あ、い、ゆ、る、世、の、人、い、た、れ、ば、う
と、と、り、び、り、あ、い、と、い、ひ、と、い、ひ、ね、ら、る、あ、い、は、い、

をわがとちり給ひしは后のまみりなりとて
足さかりゆきり何れとて思ひ侍りきりしは
みりかやせしれいしく我方もはたうあふ
このゆきり眉輪の玉にけしきりてそのま
とありしはうとありかたゆきりてあふ
とんとこのまふとありまゆきりしは
ありきりきり行ひきりきりきりて
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは

わがとちり給ひしは后のまみりなりとて
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは

孝女ニ雄略天皇 二十三年崩 年九十三 葬河内国高鷲原陵

次の見かき雄略天皇とてさき九条天皇す五
足この母皇后忌坂大中姫あり丙申れしは十月十
三日位ははたし御年七十世とてゆきりしは
年なりこの人なりゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは
ゆきりしはゆきりしはゆきりしは

き二年とて一月より二月まであひだを治ひし女
おとけとてあひだより二月より三月まで治ひし女
をんがあらむとて三月より四月まで治ひし女
又けり治むとて四月より五月まで治ひし女
年二月より三月まで治ひし女
し治ひし女
人いそぎとて治ひし女
なまりとて治ひし女
のちとて治ひし女
治ひし女
よかりとて治ひし女

ゆへに神をくりにて治ひし女
人よは治むとて治ひし女
し七月より八月まで治ひし女
ことゆりし女
あつとて治ひし女

中大ニ清寧天皇 五年崩 年四十一
葬河内國坂門原陵

次乃んや清寧天皇とて治ひし女
母皇大夫人葛城韓姫也雄略天皇の弟之御子
月よ東宮より治ひし女
五年見るとて治ひし女
きゆとて白髪皇子とて治ひし女

公ありしとありしとくは子たりれありし寵と一語
ひく東よきそたてまありし也庚申也
正月四日位ありき後小四年二十七世とありし
五年ありははるや位とほくし人ありしと
さそよつた國くま後とありしと王孫ととも
行ひし又履中天皇れありしと二人と播磨
國より取めありて兄とほあまのまて中と八皇子
と一とありし

中九四 飯豊天皇

即位年崩年四十五
葬天和國垣内丘陵

はまのえかき飯豊天皇とありしとこれハ女帝なり
ありしと後中天皇乃見えしと押羽皇子とありて

皇孫の西よりハ王子たりしとこれハ其ありなり
中九五 媛有り甲子れしと二月は位ありしと
し四十五ありのえとこの法をよゆありかありしと
ゆづりくはるはるありしと後ハありしと位あり
富たてまのえとありしとありしと後ハありしと
うち十月より後行ひしとありしと後ハありしと
るど少とありしとありしとありしとありしと
まこと日本記ありしとありしとありしとありしと
次ありしとありしとありしとありしと

中九五 顯宗天皇

三年崩 年三十八
葬天和國磐杯丘陵

次ありしと顯宗天皇とありしと飯豊天皇とありしと

朕乃をくくにおく一由せし丑歲正月一日位は
き給ふ四年二十六世と云り給ふも三年丙父のを
しそ乃皇子の安康天皇乃也せと云り一安康
乃也と云れ雄略天皇と云り一又云れ皇太子
と云れ一由一たる一かたれ給ひ一その皇子
ゆり丹波國へよげくゆり一きり一ゆりとせむと
おそく給ひてす乃君あはれ君と云らむきと云り
一播磨國へ移し一ては名どりとかくておりの
はかき一づく給ひ一ゆり一月と云り一給ひ一後
よをく乃君あはれの君と云り給ひ一命と云り
きそはあそくゆり一と云り一ゆり一命と云り

てんのがひらふあふの君あはれと命となりん
事いかにゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
君と云り一履中天皇乃西孫也男と云り一あそ人
ゆり一馬牛と云ふゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆり一君と云り一あひせんゆり一ゆり一ゆり
まゆり一あふゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆり一兄の君ゆり一ゆり一我あがゆり一ゆり
なゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり
ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり一ゆり

くざりきまへいんくも清寧天皇の御めくことわり
ありたり雄略天皇と清寧天皇の御りくもあは
せきやいり位への御り流ひひうでうそれる病と
わされたりんえうれとやありたまりん事あるへ
うはひり流ひひうそのよふあうひ流むま
こ此世世ねまうり民やすうかまゆりき

廿六 仁賢天皇

十一年崩 年五十
葬河内国植生坂本陵

次の足利の仁賢天皇とゆき、顯宗天皇れむとの
ゆきこれあふあり清寧天皇の御世三年四月
春宮の立給ふ戊辰乃と正月五日位は流せ給
ふ此年ぬ十世と流す事十一年ありはみりとの

御ありく顯宗天皇の御りの中にあはる御り
ぬ心くまめをくねく御りき

廿七 武烈天皇

八年崩 年十八
葬大和国傍立磐石北陵

次に足利の武烈天皇とゆき、仁賢天皇の御り
皇后春日大娘あり仁賢天皇七年正月、東宮の
あり給ふ此年六歳戊寅年十二月に位につきあふ
此年十歳世と流り給ふ事八年その後人とてあは
事あはたの志まきく流すはりあふ脈と
ゆきまうくう給ふと足行ひ人急はれとぬきとい
もとゆきせ人とあまの御きねくあはりあ
あは人と水よりれぬはりあはりあはりあ

記々女とほごうふあして板乃うへよましく馬乃
松くしきわごするとんせきせ給ふそのかたよ入
きる女板とうふほをえんくあまをわくして
やうてあ給し給ひまあをえんくあまをわくして
まへまよし給わりきぬう乃あきゆしくう
まごのあゆるうし世なりけ年十八と給給
ひりき水あもねを次

廿七八 繼體天皇 二十五年崩年八十二 葬楠津国三島蓋野陵

次乃兄りし繼體天皇とゆき應神天皇弟八沖子
集總別皇子とゆきこれ水子と大迹王とゆき
水子と私斐王とゆき又その弟子よ彦主人の王也

中一王乃子よまのあうはかりましくあり治
母岳仁天皇れ七世乃内むまご振姫より丁亥の
二月に位よはまゆふけ年五十八世とあり給ふ二十
五年武烈天皇うせ給ひそのり位と給ふなふへ
人むさるゆと大臣とけりあそ一天下此人をげきあ
仲哀天皇の五代乃内むまご丹波國にたひく守り
のれ王とむくあそまのりく位よはあそまのり
てはましく内むまごまのりく位よはあそまのり
なむらねれまごまのりく山中まのり給ひそ
ゆきかごまごまのりくありまのりあそまのり
正月よ越あまよ應神天皇乃五代の内むまごれ王

ねらぬらふ事なきとて又はさしこむ心く
まのりたる小太の王おどろく世ありたか
あぐらふありとけく世まのり人くか
やまひあたまの事ねりやありと世まのり
せうよまのりたる人くかこまりてこの
よと下き王これ事とうたぐひ世まのり
二百二夜とすく世終ひき仲むろ人くか
て大臣乃むろ(世まのり)事ねりし世を
中ゆりし世まのりしり終ひし世ありか
うけとり終ひし世まのりし世ありか
あふまのりまのりし世まのりし世ありか

神一なりけし世終ひし世ありき

安閑天皇

二年崩年七十
葬河内國古市高屋丘陵

次乃尼くや安閑天皇とすき継體天皇は子也母

妃尾張日子媛癸丑乃く二月は位は終ひし

世く六十八世とあり終ふ事二年位は終ひし

あくまの世く正月は終ふ事高市郡は終ひし

宣化天皇

四年崩年七十二
葬大和國身狭桃花島坂上陵

次乃尼の世く宣化天皇とすき安閑天皇乃く子也

の世ありたし海をし卯乃く十二月は位に

終ひし終ふ四年とあり終ふ事四年位は

終ひし終ふ四年とあり終ふ事四年位は

一時に侍りしとのちよりけしむりや

齊世一 欽明天皇

三十二年崩 葬大和国檜隈坂合陵

次は元加也欽明天皇とりき安閑天皇の母
皇后手白香也癸亥歲位はせきし世とあり
事十二年十三年とあり百濟國より佛經
より経つてきんりしとありひびいてあきとあり
経ひし世中のみちありて人おぼくしつと
き尾興乃大連といひり佛法をあらむり
このやまひおほむりしとあり寺とやきし
むかひにたもまをたてしとあり内裏やけの
連とありしとありしとあり此佛經とあり

き純體天皇の世とありしとあり人よりて佛
をたてしとありしとありしとありしとありし
る此世の人もありしとありしとありしとありし
きとありしとありしとありしとありしとありし
まはし世よりしとありしとありしとありしとありし
一廿三年とありしとありしとありしとありしとありし
此ら此用明天皇いびんかとの寺に乃御事とありし
天子の世とありしとありしとありしとありしとありし
世とありしとありしとありしとありしとありしとありし
此ら此世の母かとの経ふいしとありしとありしとありし
ひらその僧とありしとありしとありしとありしとありし

りんははめれ女をまらさるるをこれとえきりて
て登平よりなりてゆりけりしものほりてまら
にちしよとていふまにいとけいひのりていふ
ちいしよとていふまにいとけいひのりていふ
しちとりまをいふまにいとけいひのりていふ
ははのいれきよりて縁ゆりきいれまのいふ
うめいなりそのめをまらさるるをこれとえき
あはれいふまにいとけいひのりていふ
しちとりまをいふまにいとけいひのりていふ
ははのいれきよりて縁ゆりきいれまのいふ

文政十一丁 六年五月十日

中村直道

